

イコン

— 神の国を顕す

特別講演会

イコンと「芸術」の出会い

2月12日 (月・祝) 13:00-15:00

講師 東北学院大学教授 **サワ鐸木道剛**

19世紀ロシアのイコンは西洋絵画の圧倒的な影響の下にあった。ラファエロ、カルロ・ドルチ、シュテイベン、ガイド・レーニまたシュノル・フォンカルロスフェルトなど西洋絵画をモデルにしたものも多い。日本正教会は黎明期にそれらのイコンを導入し、多くの教会で今日まで伝えている。正教の伝統的イコン様式とされるビザンティン・イコンとの歴然たる違いにもかかわらずなお、それらはイコンとして尊ばれ、信徒の信仰を支えてきた。

では、その「イコン性」はどこにあるのか…。



講師 略歴

1974年東京大学文学部美術史学科卒業。1976-79年ベオグラード大学(ユーゴスラビア)哲学部美術史学科に留学。

岡山大学教授を経て、2016年4月より現職。1994年辻莊一・三浦アンナ=シュタンゲ賞(立教大学)受賞

2011年セルビア国第3国旗勲章受勲

会場 **正教会 西日本教区センター**
(京都ハリストス正教会)

〒604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283

問合せ Tel 075-231-2453

ocj_kyoto@yahoo.co.jp

参加費用 500円

申し込み 1月末日までに管轄司祭へ

一般の方は京都ハリストス正教会まで

参加者には昨年の冬季セミナー講演録を無償配布します。



駐車場がないので公共交通機関をご利用いただくか、近隣のコインパークをご利用ください。